

自然の恵み豊かな 津居山のよさを伝えたい

漁業は男性の仕事と思われがちですが、女性の力が不可欠です。
地元産にこだわり、津居山港の競り市などで頑張っている一人の女性を紹介します。

大下 由美さん(49歳)津居山在住



23歳でご主人の一康さんと結婚した由美さん。幼少のころから漁師の仕事を見て育ち、小島地区にある、実家も漁業を営んでいる。そのため「漁業をすることに抵抗はなく受け入れやすかった」と話す

海の仕事は

夫との二人三脚

「漁師の家庭では、生活のリズムは全て自然まかせです。漁獲量などは天候に左右され、季節によって捕れるものが違い、帰港時間も変わります」と話す大下由美さん。

由美さんは、津居山港所属漁船「真島丸」の船長を務めるご主人の一康さんと、二人三脚で漁業の仕事をしています。

豊岡市を代表する港・津居山港では、夏から秋にかけてはイカ漁、冬にはカニ漁を中心に水揚げがあります。漁場も約2時間と近く、日帰り漁が可能で鮮度も味も抜群です。漁の出港は夜も明けきらな

い早朝です。由美さんを含む漁に出る夫を待つ女性たちは、「今日も1日安全に仕事頑張れますように」という思いを込めて、出港の時は必ず船を見送るようにしています。

その日の海の状態により、帰港時間は変わるので、家事などをしながら帰港を待ちます。

ここ津居山で漁に携わっている人たちは、自然のリズムに合わせていかなければならないので、おらかで活動的な人がたくさんいます。

競り市の準備は 女性の腕の見せどころ

漁を終えて帰港した船からは、魚とともにいろんな漁獲物が大量に降ろされます。

この漁獲物を、競り市の準備のために手際よく仕分けて並べるのは、由美さんたち津居山港で働く女性たちの仕事です。

由美さんは、「帰港した船は天候のよい日には、すぐに次の漁に向けて出港します。主人との会話もそこそこに、限られた時間の中で買付けにいられた方々に対して、自慢の魚介類を見やすく並べるのが、私たち女性の腕の見せどころです」と話します。

もっと知ってほしい 津居山のよさ

近年では、健康志向の高まりとともに消費者から、食べ物に対する安全性・品質・生産周辺の環境保全に厳しい目が向けられています。また、ニーズも多様化し、さらにおいしさや体にいいものが求められています。

そこで、由美さんが部長を務める津居山漁協女性部では、魚料理講習会などを通じた魚食普及活動を行っています。魚を捌く技術や魚介類を使った料理などを、いろんなイベントで披露しています。また、近海で捕れ津居山港

で揚がった魚介類の品質や新鮮さをアピールしようと、毎年2月末に行う津居山かまつりで、かに雑炊の無料サービスコーナーを行い、毎回、大変な反響を呼んでいます。由美さんは、「私たちの家庭では、ほぼ毎日、津居山で捕れた魚介類が食卓に並びます。いろんなイベントに積極的に参加して、皆さんにもっと津居山の味覚を知ってもらいたいんです。また、津居山がまちを代表する港として、皆さんに愛着を持ってもらえるよう今後も仕事や活動がんばります」と満面の笑みを浮かべながら話していました。



早朝、降ろされた魚介類は、競りに向けて手際よく仕分けされる

学校探検 7

機関車は 私たちの手本

日高小学校（日高）

案内者 三木真理子さん



日高小学校は、日高地域の中心部にあります。校区内は、にぎやかな市街地とのどかな田園風景が広がり、この調和のとれた環境の中で、現在419人の児童が学習に励んでいます。

この小学校に通う児童会長の三木真理子さん（6年生）は、理科クラブに所属しています。将来は小学校の先生になりたいという夢を持つ三木さんに、日高小学校を紹介してもらいました。



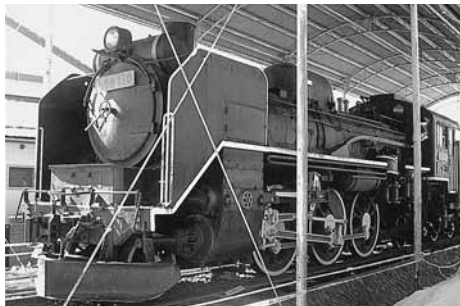
児童たちの自主的な実践活動が行われている日高小学校

小学校生活を振り返って、私の思い出に残っている学校の行事は、毎年2月に行われる「ふれあい参観日」です。今回、私たちの学年では、参観日に保護者や地域の方々の前で、研究した内容を発表しました。

「産業・歴史・自然」の分野に分かれてグループを組み、私のグループは、産業の分野で但馬牛について調べました。図書館で調べたり、町内の畜産農家を訪ねて、但馬牛の歴史や牛に与える餌、飼育方法などについて教わりました。参観日の発表の場では、グループごとに司会などの役割分担し、みんなで協力してとてもいい発表会になりました。今回の研究で発見できたことは、松阪牛や近江牛は但馬牛が元になっているということ、県内で但馬牛の飼育に力が入れていることなどです。自分たちで調べて発見で

きたことがうれしかったです。また、私の学校の校庭には、昭和46年から「蒸気機関車」が置いてあります。雨にも負けず、風にも負けず、私たち児童を優しく見守ってくれています。

私たち6年生の学年目標は、「日高小の機関車」と定めています。これは、「下級生を引っ張る日高小の原動力になる」という願いを込めたもので、校庭にたたずむ機関車は私たち上級生のお手本になっています。



校庭にどっしりたたずむ機関車は、学校のシンボルになっている

たくさんのお別れが詰まったこの校舎とも、お別れが近づいて寂しい気持ちもありますが、進学しても友達を大切にしたいと思いをこめていきたいと思います。

笑顔の輪

地球温暖化問題の啓発活動グループ 『温暖化防止出石』（出石）

「温暖化防止出石」は平成14年度に発足し、県知事に委嘱された地球温暖化防止活動推進員2人、同協力員6人の計8人が、温暖化問題の啓発活動に取り組んでいます。

主な活動は、子どもたちへの環境教育です。出石地域を中心に、小学校へ出前授業に出かけ、社会科や総合学習の時間に子どもたちとともに温暖化問題について考えます。

メンバーお手製の冷蔵庫や自動車が登場する省エネについての寸劇や、自身の生活を振り返るエコライフ度チェック、ごみ分別クイズなどを通して、環境についての問題点を探っていきます。

メンバーの雀部真理さんは「活動していてよかったと思う時は、子どもたちが一緒に考えてくれて反応がよかった時です」と話し、子どもからその家族へと関心が広がることを期待しています。

手づくりの授業は、子どもから大人にまでわかりやすいと好評で、3月4日に行われ

る「環境フォーラムイン出石」にも出演予定。今後、地域に根ざした活動をしようとして、新メンバーを募集しています。

雀部さんは、「素人の集まりですが、私たちの活動が環境問題改善への一助になればと思っています」と控えめながらもその言葉には力強さが、温暖化防止出石の活動から環境意識の輪が確実に広がっています。



温暖化問題について寸劇などでわかりやすく説明するメンバーの皆さん